

テーマの設定理由

本園の幼児は、隣接する小学校のビオトープに日ごろから足を運び、そこで見られる様々な生き物や植物に興味をもって関わっている。幼児は、興味関心をもちながら、オタマジャクシやヤゴなどの生き物を飼育する中で、驚いたり、感動したり、疑問に思ったことを友達と話し合ったりしている。心を動かしている。日々の幼児の探求をさらに深めるため、このテーマを設定した。

活動スケジュール

4月	オタマジャクシ、ヤゴの飼育
5月	ツマグロヒョウモンの幼虫、カタツムリの飼育
6月	アゲハチョウの幼虫、シャクトリムシの飼育
7月	セスジスズメの幼虫の飼育
9月	虫取り遊び、バッタの飼育
10月	コガネムシの幼虫の飼育
11月	アゲハチョウの飼育（2回目）



*環境の構成

虫取り網、水生昆虫用採集網、虫眼鏡、飼育ケース等の用具を幼児が取り出しやすいところに用意しておき、生き物を見つけたときや捕まえたときにすぐに使うことができるようにした。時期や幼児の興味ごとに図鑑や絵本も絵本棚や飼育コーナーに用意しておくようにした。また必要に応じてタブレットや電子顕微鏡等を用い、より詳しい探究活動ができるようにした。

活動事例

セスジスズメの幼虫の飼育活動



見たことのない黒い幼虫を幼稚園の花壇で5匹見付けた。「水玉模様がかわいい」「角が生えてるね」と興味をもち、早速飼育ケースに入れて虫眼鏡で見たり、図鑑で調べたりし始めた。調べると「セスジスズメ」の幼虫であることが分かる。幼児が「触ってみたい」と話すが、「触っていいのかどうか図鑑に書いてないね」と困り、タブレットで調べることにした。無害であり、触ってもよいことが分かると指先でそうっと触れたり、手に乗せたりして「すべすべだね」「ぷにぷにしてる」と喜び親しんだ。餌の草を入れたり糞を掃除したりして世話をしていたが、日ごとに弱り、最後には死んでしまった。「ご飯もあげたのにどうして死んじゃうのかな」「お部屋が暑すぎるのかな」「夜はクーラーできないからかな」と自分たちなりに原因を考え、「このままだとかわいそう」「寂しいけど放してあげよう」と皆で相談し、元の場所に放すことにした。

振り返りを踏まえた気付き

様々な生き物に親しんできた経験から、見たこともない幼虫にも怖がらずに関わろうとする姿が見られた。自分たちで特徴や飼育方法を調べ世話をするが、猛暑のためか朝になると死んでしまっていることが数日続いた。必要な世話をしても死んでしまうことから、飼育することの難しさに直面し、「お世話したい」という愛着の気持ちと、セスジスズメを心配する気持ちの間で葛藤し、悩みながらも「このままだとかわいそう」と元の場所へ戻す選択をした。幼児は、本経験を通して、生命には限りがあることや、生き物を飼育することの責任や難しさに気付き、生き物にとってよりよい環境とは何かを自分たちなりに考えることができた。